

平成27年度第4回河南町総合戦略推進会議 議事要旨

日 時：平成27年12月14日(月) 午後2時～4時30分
場 所：河南町役場4階 大会議室南
出席者：委員16名／欠席委員6名
事務局4名
傍聴者1名

1. 開会

2. 第3回推進会議議事要旨について

(柿沼会長)

- ・議事録を事前にお届けできなかったもので、後日、お気づきの点があれば、ご連絡いただきたい。

3. 案件

(1) 河南町まちづくり戦略(総合戦略)(素案)について

(柿沼会長)

- ・案件について
- ・資料1、総合戦略の素案について、町の担当者から説明をお願いいたします。

(事務局)

- ・資料1にもとづき、資料説明。
- ・長期的なビジョンとしての「1. 「住みたいまち、住み続けたいまち」を目指して」のなかで、今ある河南町の良さ、活用・充実強化が必要な課題、総合戦略策定の意義、将来イメージと人口ビジョン・総合戦略について説明。
- ・5年間に取り組む戦略として、「2. 戦略の全体像と施策の柱」のなかで、戦略の基本的考え方、地方創生に向けた課題と施策体系、戦略の柱別(「子ども のびのび」かなん、「元気もりもり」かなん、「笑顔 いきいき」かなん、「都会 きらきら」かなん、「田舎 わくわく」かなん、「どきどき 発信」かなん)の取組内容について説明。

(柿沼会長)

- ・資料27、28ページの安全・安心のまちづくりということから、安全情報に関する資料が提供されているのか。

(事務局)

- ・前回質問があったので、富田林警察が出している資料を提供している。平成25～26年には河南町での窃盗犯などの犯罪は減少している。

(柿沼会長)

- ・資料1について。平成27年までの長期的な目標(6ページまで)と平成31年までの短期的な目標(7ページ以降)からなっている。
- ・まず、平成27年までの超長期のビジョン内容について、ご意見をお聞きしたい。
- ・6つの柱について示されている個々の31年までの取組みについて、ご意見をお願いしたい。

(委員)

- ・資料 10、11 ページについて。幼稚園の2年保育を3年保育にすることはできないのか。1年間だけ私立に入れてから公立に戻る人も多い。3年間の私立に行ってしまうと、小学校に行ったとき、幼稚園の段階で友達がいる人はうまくいっているが、そうでなかったら全くつながりがなく、トラブルがあった際、うまく解決できない。3年保育を検討するのもひとつの案ではないか。

(事務局)

- ・今回、主要施策ということで記しているが、ここにすべての事業を細かく固有名詞的に書き込むということではなく、デフォルメした形と言うと少し語弊があるが、3年保育についても、例えば認定こども園の整備など、ニーズへの対応というところを含めて考えている。3年保育についても、そういうニーズは教育委員会も把握しておられると思うので、例えば認定こども園の整備のタイミングに合わせるかどうかなど、その辺は個別の話になってしまうが、そういう声は現課にもお伝えしたうえで、この中で読み込むような形で考えている。

(柿沼会長)

- ・資料 11 ページの多子世帯というのは何人からか。

(事務局)

- ・2人からである。

(委員)

- ・これをやるためには、かなり大きな資金が必要となるが、河南町として、それをやるだけの覚悟、決心はされているのか。

(委員)

- ・地方創生の交付金があるが、それは河南町の場合、どのくらいあるのか。

(事務局)

- ・その交付金は26年度の国の補正として打ち出された。プレミアム商品券の他、個別の施策に使える枠もある。今回、そうした事業も盛り込んでいる。それを総合戦略に盛り込むことを条件として交付していただいている資金である。総額は3,000万円超だと思う。

(委員)

- ・皆さんからいただいたアイデアを盛り込んで、この戦略を作っていくことによって予算がつく。今から予算を心配し始めると、話が前に進まなくなる。
- ・資料 12 ページの教育環境の充実に関しては、河南町に芸大に加えて、大学をもう一つくらい引っ張ってくるというくらいアイデアがほしい。超一流の私立の小学校をここに誘致することができれば、自然にその家庭もついてきて、子どもだけでなく流入家族を引っ張れるのではないか。そういうことを5年計画、10年計画で真剣に取り上げればよいと思う。
- ・道の駅は、拡張ではなく新設すればよい。各地の道の駅を見てきているが、観光バスが入れるくらいの面積を持たなければ、道の駅は成り立っていかない。そういう話を皆さんからいただければ有難い。

(委員)

- ・これを見た感想としては、どこの市町村にもあるような内容ではないかと思う。今後5年間、10年間に河南町が何を指すのか。そういう「ウリ」を出さないといけない。これが必要であり、「ウリ」となるから予算を投入しようと言えるような、予算が取れるような施

策をもっと考えるべきである。しかし、この推進会議でそういう内容に関して、どこまで意見として言えるのか、よくわからない。

- ・河南町全体で議会も含めて、どういう取り組み方をしていくのかというプロセスがよくわからない。平成 27 年から 31 年までの 5 年間における 6 つの柱のうち、何を優先的に目指すのかという目標をもう少しはつきり出すとよいと思う。もっと発想の転換をするとよいのではないか。河南町にこれがあるから河南町に行く、住むというような、例えば、日本あるいは世界にアピールするような芸術祭や、小さな村で世界的なコンサートを開くなど、他の市町村が考えないようなことを実施するといった施策を打ち出せないだろうか。
- ・これはあくまで総論である。私がイメージする推進会議では、第 1 回目の会議でこういうものが出て、その後、より具体的な施策についての意見を出せるのではないかと考えていた。

(委員)

- ・会長はそういう意見を求めていた。当初から、常識を覆すようなものでもよいから出してくださいとおっしゃっていた。

(委員)

- ・「特区」のように、こういうまちづくりをしよう、といったことを考えてもよいと思う。教育や環境の問題など、今あるところをどうしていくかというのではなく、全く違った観点から考えてはどうか。例えば河南町では自然が非常に良いので、昔の日本的なまち、住まいなど。他の地域では一つのスペースの中で町屋や武家屋敷のまちが作られているという例がある。河南町の中にそういう特区のようなものがあればよいのではないか。住まい、そこに住む人たち、そこで何が行われているかというような一つの地域というのはいかがでしょうか。

(柿沼会長)

- ・各個別の戦略ではなく、「総合戦略」としての内容について、ご意見を伺いたい。今日ようやく総合戦略の素案を示していただいたという段階である。総合戦略の戦略を、まちがつくられることに関するご意見をいただけると幸いである。今いただいたお話は各論なので、まず総合戦略が示された後、今度は個別の戦略というような、例えば教育などに入っていくことになるだろうと理解している。
- ・まずは総合戦略を議会に対してもお示ししながら、総合的なまちづくりという点から、いろんなことを網羅したものを詰め、そこから個別に進んでいく。今後どういう戦略にバージョンアップしていくかというご意見をいただけると、座長としては助かる。

(委員)

- ・資料を見た感想として、子どもに対しては力を入れて、良い施策が作られていると感じるが、人口動態の資料を見ると、30~40 歳代が抜けている。せっかくお金を出しているにもかかわらず、そういう人たちが抜けていくのは、よくない。
- ・その原因は、公共交通、特に鉄道関係に関する施策が不足しているためではないか。ずっと住み続けられる環境をつくってもらわないといけない。
- ・また、60 歳以上になった高齢者が河南町は住みやすいと感じられるような福祉施策が欠けているのではないか。そういうことを真剣に考えていくことが町のためになり、人口増加にもつながるのではないか。

(柿沼会長)

- ・資料 30 ページにあるように、交通網整備に向けた取り組みによって転出者を減らしていこうという目標がある (491 人→442 人)。高規格道路がどこまでかわからないが。

(委員)

- ・資料 9 ページの総合戦略の全体像に書かれている交通網の整備について、大阪府の中で見れば、東西の線がない。人口の移動を考えると、たとえば泉北から、東西の鉄道などを敷設する提案をするなども考えられる。そのために水越をこえ、奈良へ抜けるという東西の鉄道を敷設することも良い提言になるのではないかと。市町村との連携、かつ人口の移動手段としての鉄道という考え方もあると思う。

(柿沼会長)

- ・これについては町で素案が作られているので、なかなか具体的なことは難しいかもしれないが、高規格道路など、何か想定されているのか。

(事務局)

- ・高速道路などを総称したものとして高規格幹線道路と記している。これについては従来から町長を含め、トップセールス、関係機関との情報交換をしている。関係機関と期成同盟を立ち上げ、本年度には動きがあると聞いている。
- ・基本計画の大きな枠組みとしては、人口ビジョンとの両輪ということで、超長期的な町の方向づけとして2060年のまちのビジョンを示している。高速道路もそのような長期的な取り組み。
- ・鉄道については、事業費がついたといった動きは把握していない。これも町長とトップセールスの中で、特に近鉄グループとは協力関係にあると思うが、具体的な話は聞いていない。

(柿沼会長)

- ・一町では難しいので、隣接市町村との協力があるとよいと思う。

(委員)

- ・今の町長は良い意味での道路族であり、熱心な発言を続けていただいているので、道路はある程度、期待してもよいのではないかと。その一つの例として、太子のトンネルを抜けて、河内長野に抜けている道路、いわゆるグリーンロードは、河内長野の南花台まで出来上がっている。これがさらに数年をかけて河内長野の日野まで伸びる。そうすれば関空への距離が近くなる。これは農水省予算でやっているもので別のものだが、道路がもう少し出来上がるということなので、悲観的に見る必要はないだろう。現実には前向きに動いている。その道路ができれば、関空までマイカーで短時間に行けるということなので、期待してもよいのではないかと。

(委員)

- ・高齢化が進んでおり、マイカーに乗る年齢も制限される。高齢者の方も免許を持って車に乗っている間はよいが、杖をついて歩かないといけなくなったときには電車、バスが必要になってくる。なるべく早い目に電車をこちらに持ってきていただくための運動があるとよい。車に乗れる人はよいが、乗れない人が増えてくるのが現状である。

(委員)

- ・資料 31 ページのコミュニティバスについて。コミュニティバスはさくら坂からも出ているが、このコミュニティバスは住民のニーズに合っていないと思う。
- ・親世代が30歳代から出ていく要因として、中学校への通学に、さくら坂から自転車で通わないといけないという点がある。自分が育ててきた子どもがここに住み続け、さらに将来、自分の子どもたちを自転車で通わせたいと思うだろうかという疑問を感じる。親に毎朝送ってもらっていたことなど、親の負担を知っている子どもたちが働き始めたときに、自分の子どもを毎朝送ってあげられるという自信は持てないのではないかと。

- ・コミュニティバスであるが、10時台にしか走らない。万代、オークワ、あるいは役場、お医者さんのところに行きたいと思っても、コミュニティバスの本数も増えない。もう少しうまく活用できないだろうかと思う。本数が増えてくれば、バスに乗って買い物もして帰ってこられるので便利になると思う。
- ・やまなみ行きのバスがあったが、中学生は乗っては駄目という話もあったと聞く。お金を払ってもよいから、そういうものがあればと思う。

(事務局)

- ・地域公共交通については、町の中でも大きな課題である。法定協議会という別の組織で検討している案件だが、各校区別で、バス交通をどうするかについての説明会を開催した。
- ・やまなみバスは、かなんぴあへの福祉送迎バスという福祉施設に行くことを目的とするバスとしてスタートしたが、公共交通を何とかしていかなければならないと数年かけて考え、やまなみバスは現在、「かなんぴあ」所管課から町の総務課へと、町全体のバス、それがどこまで地域公共交通と言えるかは別として、町全体のものとして性質が変わってきている。
- ・法定協議会の中でも、やまなみバスをより皆様のニーズに合ったバスにするために検討しているところである。来年の2月から実証運行のための手続きを進めている。多くの資金を投入してバスを5台くらい走らせるのであれば、行きたいところに30分以内にまわれるようなルートを組み、町のすべてのエリアの方に満足していただけたらと思うのだが、どれだけ投資をして、どれだけまわせるかというのは、皆さんから完璧な満足はいただけないかなと感じている。山手などのエリアについては、デマンド型のルートを組んで実証実験を進めていく予定で、公共交通を充実させていくという方向にある。

(委員)

- ・小学校がだんだん無くなっていくという状況で、小学6年生から中学生に進学したとき、河南中学校に通うことになるので、小学校を河南中学校の近辺につくればよいと思う。小学1年生くらいの危険な時期には先輩の中学生がいるので保護もしてくれるだろう。小学校をなくす必要もなくなるのではないかな。

(柿沼会長)

- ・小中一貫校についても記されているようだが。

(事務局)

- ・「一貫教育」と記載している。

(委員)

- ・子どもの数が減少するなか、小学校、中学校、認定こども園を含め、現在検討しているところである。そこも踏まえて、ご意見はいただくが、検討をさせていただいているなかで、またお示しさせていただきたいと思う。
- ・コミュニティバスのお話が出たが、オークワ、万代、病院をまわるような循環バスを走らせようとしており、来年2月くらいには、そういったバスと、寺田から出るバスをどのようにつなぐかを検討中。点を面につないで、そこに道路など、いろんなものを作っていきたい。

(柿沼会長)

- ・大阪芸術大学は創設からしばらくの間は、地元の金剛バスとの間で契約を結び、喜志からスクールバスを動かしていた。入札にしたところ、金剛バスよりもMKバスの方がサービスがよかったため、現在ではこのバス会社を使っている。
- ・今、梅田に直通バスを走らせている。学生バスで300円と安く、所要時間は40分。学生に評判が良い。これは一つの事例だが、都心とアクセスがよくなると、人の流れもスム

ーズになる。空きバスも抱えており、町との連携も、なんらかの方法があるのではないか。

(委員)

- ・町内からイタリアへ植木の輸出をしている事業者がいる。こういうことは植木の本場である河南町くらいしかできない。こういうのが拡大していけば、おもしろいものになるのではないか。ヒントとして申し上げておく。

(柿沼会長)

- ・かなんブランドの現状はどうか。

(委員)

- ・環境・まちづくり推進課がやっている事業で、現時点ではあまり活用されていないのではないか。道の駅でも、今、進めているところで、今年度中に販売を始める予定。
- ・かなんブランドのロゴマークなどがつくられているが、まだまだ弱い。販売はしているのだが、知名度がない状態なので、あまり販売に寄与しているものではない。

(事務局)

- ・町のまちづくりの分野で取り組んでいる事業として、「かなんブランド」ロゴマークを作り活用いただいている。町の特色を活かした商品開発に対し、開発経費の一部を助成する施策となっている。これまで、タオル、ろうそくをこの制度を活用してつくっていただいたと聞いている。
- ・道の駅で取り組んでいただくような、河南町の特色を活かした食物等のものもできればよい。

(委員)

- ・農産物に限って言えば、河南町には「これ」というもの、丹波の黒豆のような知名度があるものがない。現状のものを増やすこと、または、新たに取り入れることによって、加工品や特色を活かしたものは増えていくと思うのだが、そこが弱く、広がりが少ない。
- ・農家自体がそこに力を入れるところまで行っていない。他所の限界集落のようなどころでは、これをしないと生き残れないという危機感があるので必死になってやるが、河南町では、まだ現状でもやっていけると考えているため、深くつっこんでやっていくという意欲が少ない。
- ・今の年配の農家の方たちは、農業という産業を維持してきた。次の世代に向けた支援策として、農業を自分の生業にさせていただける方々を河南町に引き込んで、その方々が河南町で暮らしていくための取り組みについて書かれているが、我々は、河南町で新たに農業をされている30~40歳代くらいの方たちを数名、出荷者として招き入れている。将来、河南町に移住してきていただければと思う。
- ・まだ、そうした方の人数は少なく、これから農業を辞める方もいるだろう。もっと入ってきてもらうことにより、若い人たちが新たなメジャーになる農産物を増やしていくことに取り組んでくれると思う。5年、10年以内にやっていけるとよい。大きくするだけでなく、それにふさわしい中身も必要になり、充実させていくべきである。新たに入ってくる農業の方たちを招き入れるための環境づくりを、道の駅としても、河南町やJAとも協力して取り組んでいきたい。

(委員)

- ・今のお話に関連して、レジュメ・まとめの表現の仕方を工夫するとよいと思う。ここに書かれているのは支援なので、サポートするというイメージだが、町が中心になって新しく開発する施策を積極的に推進していく、あるいは、大阪府の農林センターと協力して新しい農産物をつくる、といった前向きな表現の仕方もあると思う。表現の仕方だけで中身の

濃さも変わってくると思う。

(柿沼会長)

- ・「町も旗を振れ」というとても良いご意見です。

(委員)

- ・例えば、宮崎のマンゴーのように、地場の農産物を積極的にブランドとして開発するというのを前面に出せば、どんどん人が集まると思う。

(委員)

- ・その一つの成功例が、水越米である。これは皇居の新嘗祭に献上された。それをもっとPRしていけば、水越米ももっと定着するだろう。行政がリーダーシップを発揮してもらえればよいと思う。
- ・なすは10年程前までは河南町のブランドであった。富田林の西板持のなすと比べると、町内で作っているのは70歳代であるが、西板持では30～40歳代の青年が作っている。種類は千両なす。代議士も府会議員も、なすの本場は西板持だと思っている。そうではなく、発祥は、河南町だということアピールすべきである。
- ・古市のいちじくは商品価値が高い。

(柿沼会長)

- ・河南町では、ぶどうは採れないのか。

(委員)

- ・作っている方がおられない。河南町はもともとゼロ。ぶどうは、もともと斜面でつくる。

(委員)

- ・河南町ではもともとは梨の生産が行われていた。

(委員)

- ・私は3、4年前から竹灯籠を作っており、去年は、神山の老人会に出した。道の駅の後ろには竹林がある。たけのご掘りをしたいという人も出てくるし、竹林があれば雰囲気の良い。竹炭は道の駅にもある。どうぞ竹を切ってくださいと言われてたと言われたことがある。これが道の駅から広がっていくのではないか。
- ・柏原市では、ぶどう園が高齢化でできなくなったので、柏原市がバックアップして河内木綿を商品化している。河内木綿はそれほど手がかからないものなので、子どもからお年寄りまでが関わって、河内木綿を商品化できるのではないか。河南町は日中、陽があたっている農地が多い。そういうところで河内木綿を栽培し、お年寄りが摘んで商品化できればよいと思う。
- ・京都の竹林では、癒やされるということから、多くの人が訪れる。そういうことが道の駅を一つの拠点として広がっていくのではないか。
- ・農地においても、農業だけでなく、空き農地をそういう形で利用していくとよいと思う。

(柿沼会長)

- ・河南町ではかつては、木綿屋敷が多くあった。当時は、河内という広い範囲でやっていた。

(委員)

- ・河内木綿は手作業の工程が多い。そういう意味でも、お年寄りにとって、やれることがたくさんあり、子どもたちにとっても、ものを育てていくという教育になるのではないか。

(柿沼会長)

- ・栽培も簡単だが、出口のところで価格的になかなか勝負できない。

(委員)

- ・資料 25 ページの住宅行政、空き家対策について、寛弘寺に住んでいる若い方が農地を借りられる家を探していたことがあった。空き家も多いが、空き家バンクのようなものを行政が管理し、問い合わせがあったときに、行政に連絡してくださいと伝えるようなルートをつくれば、若い人の移住につながるのではないか。若い人は情報発信力を持っているので、何人かの若い人が集まり、情報発信力も高まるのではないか。それをきっかけにして、さらに若い世代の移住も促進されるのではないか。
- ・空き農地の紹介も考えられる。いちご園をしている方が農地を探しているということも聞いたので、情報を集めて紹介業務を進めていくとよいと思う。
- ・安い家賃で住宅を借りられれば、移住も進むのではないか。そのためには財政的な補助も必要になると思うが、大宝、さくら坂の住宅地や旧村も含め、もう一度チェックするとよいと思う。

(柿沼会長)

- ・町に移住の窓口はあるのか。

(事務局)

- ・各部署の仕事の所管についての事務分掌を定めるが、その中に「移住促進」について直接記したものはない。
- ・今年、空き家に関する法律（空家等対策の推進に関する特別措置法）が定まり、持ち主がなく倒壊の危険があるような「特定空家等」については、市町村も積極的に取り組んでいくべきだということになっている。町内にどれだけの空き家があるのかは把握できていないと思う。「特定空家」を把握する取り組みも今後必要になると思う。
- ・この会議は戦略について考えていく場であり、「空き家バンク」という手法など個別の戦術については、少し行政に委ねていただきたい。戦略と戦術はレベルが変わってくるかと思う。家の横に農地があるという古民家のような空き家は河南町にはなかなかないと思うが、河南町に住みたいと思えるような移住者向けの取り組みは必要だと考えている。

(柿沼会長)

- ・京都の美山地区では、観光協会が道の駅に併設されており、移住相談も行っている。そこに情報を持っていけば斡旋してくれる。やれないこともない戦術であるかもしれない。

(委員)

- ・町として、河南町にどれだけの住まいを増やす予定があるのか。人口を何人にしたいという予定はあるのか。増やす気持ちが必要。出て行くのを止めるばかりではいけない。例えば、河南町に5万人以上は住めない、あるいは10万人にしようと思っているといったような施策はあるのか。

(柿沼会長)

- ・資料 5 ページの将来展望人口の図で示している。社会増を増やして 2060 年に 17,000 人にしていこうというもの。

(事務局)

- ・17,000 人程が、かつて右肩上がりで増えてきた時点でのピークであった。そこから先、団塊世代の方が亡くなられる時期までは、いろんな戦略を打ち出したとしても、人口減少となる。その後、回復させ、2060 年には 17,000 人を確保したいと考えている。

- ・住まいのキャパシティについて、最大 17,000 人住んでいたこともあり、大宝やさくら坂で増えてきている空き家も活用しながら、再び 17,000 人くらいまで戻ってきていただきたい。河南町に新たに住んでいただく方を増やしていきたいという思いで、この戦略を作っている。

(委員)

- ・家から通えず、寮に住んで学校に通うような方もそこに住み続けたいと言っている。どうしてかという、まちを自分たちが維持していきたいという意識があるからである。「ここ(河南町)から住みやすい地区に移ってもいいかな」という意識も皆さんにはあると思う。自分が地域を担っているという意識が必要。帰ってこようという意識を持ってもらうための戦略を練ってほしい。

(柿沼会長)

- ・だんじりを曳くなど、地元への帰属意識だと思う。

(事務局)

- ・資料 24 ページに地域の絆についても盛り込んでいるが、「だんじり」とは書きにくいので、「町の郷土行事」と記している。我々職員の中でも、河南町と言えば、だんじりだという声が多くあった。地域に誇りを持ち、河南町にずっと住んでもらうためのコミュニティをつくっていくことも重要であり、これから河南町を担っていく世代がそういう思いを持って取り組んでいけるようなビジョンを作っていきたい。

(委員)

- ・資料 22 ページに「新たな起業・企業立地ニーズに対応できるよう都市計画の基準緩和を促進」と書かれているのは、企業村を誘致するというものだと思うが、その場合に具体的にイメージした企業が河南町に新たに工場をつくり、その企業に適合した都市計画を作るなど、ある程度、想定した対象企業や、こういう業種を誘致したい、といった具体的なイメージも必要だと思う。

(事務局)

- ・企業団地を作っていくといったところまでのイメージは今はない。まず取っ掛かりとして、河南町に合ったもの、例えば野菜の工場的なものなどは、農地でもできるようになるということなので、そういうところから次へ展開するというイメージを持っている。都市計画の見直しというのは、なかなかすぐにはできない。

(委員)

- ・もっと積極的に企業ニーズを調べ、どういう場所に誘致できるのか、誘致するための規制緩和の条件はどういうものかなどを考えることが必要だと思う。今の考えであれば、どうしても従来のイメージから脱却していないと感じる。積極的な検討をお願いしたい。

(委員)

- ・河南町はほとんど市街化調整区域にある。私は第 3 次、第 4 次の総合計画策定の時に、超一流の企業の工場を持ってくるよう言い続けてきたが、なかなかそれが実現に結びつかない。ご指摘のような声が大きくなってきて、市街化調整区域の網を外すという動きが出てきた場合には可能性が出てくる。労働人口を増やすには、これが一番手っ取り早い方法である。このことに重点的に取り組んでほしい。

(委員)

- ・環境技術に関する企業や研究開発機関の誘致などを真剣に考え、こういう業種であれば、

こういう条件でいくなど、具体的な検討のアプローチを行い、実現化していくという意気込みが欲しい。

(委員)

- ・大宝、さくら坂地区で住宅が増えている。それ以外の河南町において、農地や自然も考えながら、どこに何を持ってくるかという見直しを町では考えておられるのか。

(委員)

- ・第4次の総合計画以降の検討はされていないと思う。

(事務局)

- ・ある方が、「無いものねだりをすると失敗するが、あるもの探しをして、その特色を活かすと成功する」とおっしゃっていた。ディズニーランドのようなものを作れば人が来ると考えて、そういうものを作ったとしても失敗する。
- ・企業誘致にしても、大きなものをピンポイントで呼び込むのは、なかなか難しい。高速道路、農の分野など、地域の魅力を高めていき、河南町にはこういう企業が来てくれるというものを作り出していく必要がある。
- ・戦略の中で、地域のいろんな価値、いろんなジャンルの魅力を高めて、最終的にこれが実現できると思う。都市計画は、河南町だけで網を外せるようなことではないので、できる範囲で取り組んでいくというのが現状である。
- ・中地区のオークワは市街化区域ではないが、いろいろ工夫をして、企業を呼び込んでいる。そうした地道な取り組みも必要だと考えている。

(委員)

- ・私は美原にいたが、その後住宅が密集して、環境が悪くなったという。河南町では良い環境の中に良いものを持ってくるという考え方であるが、河南町には山側と農地側がある。そういう意味で、都市計画の見直しを検討していただければと思う。

(委員)

- ・資料24ページの「地域の交流ステーションづくりの推進」の中で生涯学習について書かれているが、私はNPO 法人大阪生涯学習推進協議会の副理事長を務めている。そのなかで、田尻町で、音楽を通して、子どもたちと高齢者の場所づくりに取り組んだ。これは文科省の関係事業で、助成金40万円くらいが出される。こういうことは河南町でも将来的にできるのではないかと。芸大にも協力いただければ、可能性が高いものとなると思っている。1件あたり70万円、100万円といった助成金が取れる事業がある。会費だけでは足りないで、事業展開をしかけている。これについては来年以降の問題として町の教育委員会と考えていきたい。
- ・企業誘致について、かつて私はある県の企業誘致のプロジェクト・マネージャーとして情報収集に走り回ったことがある。まず、河南町の現状の分析が必要。業種、物流、地域の流通などの分析や、どういう地域性、商品性を持っているかについて、私も勉強したいと思っている。将来性のある事業はどのようなものか、また、法律との関わりもある。まず、現状分析を緻密にやっていないといけないし、地域性の問題、法律の問題など、いろんなものが関わってくるので、私自身勉強していきたいと思っている。

4. その他

(事務局)

- ・今後、今日のご意見もふまえ、素案をまとめ、タウンミーティング、パブリックコメント

の場を設ける予定。

(柿沼会長)

- 2月中に総合戦略を成案とする予定で、第5回については、2月中としか現時点では言えない。また、あらためて、日程を調整させていただきたい。

以上